

令和6年度 さくら草特別支援学校第2回学校運営協議会議事録

1 日時

令和6年11月6日(水) 10:00～11:30

2 場所 さくら草特別支援学校会議室

3 出席者

(敬称略)

山岡 康幸 大谷場東小学校非常勤講師(元本校教頭)
山本 宏 社会福祉法人さくら草 理事長
石関 健 学校法人大古里学園 理事長
酒井 浩志 さいたま市立大古里公民館 館長
工藤 祐子 療育センターさくら草すみれ 園長
鈴木 美幸 三室おぶさと住宅自治会 会長
天野 尚子 緑区障害者生活支援センター 施設管理者
中村 有里 さいたま市立病院 看護師長
三島 公夫 さいたま市立三室小学校 校長
大田 明子 本校 PTA会長
入澤真理香 さくら草特別支援学校校長
稲 吉 勝 さくら草特別支援学校教頭
遅澤麻奈美 さくら草特別支援学校教頭
山口 真 さくら草特別支援学校 教務主任
山元 誠一郎 さくら草特別支援学校 学校地域連携コーディネーター

15名

4 欠席者

廣江 剛 さいたま市立三室中学校 校長

1名

5 議事録

(司会:山元)

1 校長あいさつ

・文化祭について ぜひ日頃の成果をみていただきたい

2 日程確認(教頭)

3 教育活動の近況報告(教務主任)

・校外学習を中心に各学部の活動を紹介
コロナ対応時より校外の活動が増えてきた
・さくら草タイム 地域と児童生徒が直接お手紙配りで交流
・縦割り活動、プール活動
・学校間交流 三室中・三室小・(ひまわり特別支援学校)

質問等

・泊を伴う行事について、宿泊施設をどう選んでいるか

バリアフリー等の設備面や食事(再調理、特別食への対応)等を考慮して選んでいる。そうすると場所

に制限が多いため、同じ場所になりがちな面もある。

・苦勞する点について

エレベーターの大きさ、食事の配慮がしてもらえるか

・宿泊等は保護者の付き添い等があるのか

医療的ケア等協力をしていることもまだ多い。

4 熟議

「学校・家庭・地域で連携してできる取組について」(実施状況報告) 進行:山岡委員長

補足:別紙資料参照

・学校間交流は深まってきている。

・三室中学校ファーム

・作品を通しての地域交流

今後本校児童生徒と地域と直接かかわっていける取組を増やせないか

・ポッチャを通じた交流ができればよいのではないか。

・スポーツフェスティバル等を学部単位でなく全体で開催してほしい。土曜開催にするなどすれば普段参加できない保護者や地域の方が見に来やすいのでは
スペースの確保等の課題がある。

・近隣小学校1年生オンライン、2年生学区探検での交流

「主体的に」と言われるが、さくら草の児童生徒の主体性とは

他の学校のことはなかなかわからないので活動の様子を互いに見せ合う、紹介しあうことがまず主体性の一歩ではないか。

・インクルーシブ遊具がどこかの一角にあるといいなと感じた。

・お手紙配りを通りすがりで見るのができた。地域との交流がとても良い雰囲気であった。

通常校の児童生徒の障害理解の促進の取り組みが進めば。

南区事業所、行政、学校、地域等の交流を進めていきたい 他区でも進んでいけば

現場実習時の対応、引継ぎを密に今後も進めていきたい。

・普段の様子を知る機会がないので活躍している場面が観れるとよい。行事が地域も参加可能なら院内にも広めていきたい。

・桜区なので距離的に難しいが、情報提供等で連携していきたい。

校外学習を行う大変さがよくわかる。計画を立てるとき等に情報共有できれば良いと感じる。

ポッチャを楽しんでいるという卒園生からの話があった。

・公民館の文化祭に何かしらの形で参加していただければ 負担のないよう今後相談していきたい。

・11月3日開催された三室ふれあい祭りに参加したがスポーツ活動がないのでそこでポッチャ大会等一緒にできればよいのではと感じた。

・子ども同士のかかわりの笑顔が素敵だった。普段どうしても大人とのかかわりが多いことが多い。

かかわった後に子どもたちの感想等を聞いてみたい。

・通常校の小学生は人と触れ合うことを求めている。楽しんでいる。外国人でも障害を持っていても関係ない。交流は低年齢から始めた方が垣根が低くてよい。また、大人同士の交流も大切。

5 諸連絡

次回令和7年2月12日(水)

6 文化祭参観